

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 19 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03192

研究課題名(和文) ロシア・ウクライナ・ベラルーシの文学と社会に関する跨橋的研究

研究課題名(英文) A bridging study on the literature and society of Russia, Ukraine, Belarus

研究代表者

沼野 恭子 (Numano, Kyoko)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：60536142

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：研究の目的は、東スラヴ語文化圏(ロシア、ウクライナ、ベラルーシ)の文学、歴史、社会について、地域横断的、ジャンル横断的な研究を行い、この地域の複雑な実相を明らかにすることである。文学、文化、歴史、政治、地域研究を専門とする8名の研究者が共同作業によって研究を進め、ノーベル文学賞受賞作家S・アレクシエーヴィチらを招聘して国際シンポジウムを実施した。3年間の研究の結果、この地域の多様な実態と歴史的背景に対する理解を深め、作家や研究者と研究交流ネットワークを広げるとともに、若手研究者を育てることができた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of our project is to conduct region-crossing and genre-crossing researches on literature, history and society of the East Slavic cultural area (Russia, Ukraine, Belarus), in order to clarify its complex realities. Our group consists of 8 members, who specialize in literature, culture, history, politics and regional studies. We held international symposiums with the participation of outstanding writers, such as the Belarussian Nobel Prize winner for literature Svetlana Alexievich. Through three years of research, we have analyzed the diversity and historical background of this area, expanded our academic network with writers and scholars, and also fostered young researchers.

研究分野：ロシア文学

キーワード：ロシア東欧文学 ロシア東欧史 ウクライナ ベラルーシ

1. 研究開始当初の背景

(1) ロシア・ウクライナ・ベラルーシの三国は文化的・歴史的に深い関係にあり、言語のみならず多くの点で近接性が見られる。そのためソ連時代には、これら三国が共和国としてソ連邦を構成していたことも一因となり、一括して論じられることが多く、さらにはロシアを中心とした視点からの文学・文化研究、歴史研究が国内外の主流であった。ところが、ソ連解体後は一転して、それぞれの国で「国民国家化」に似た過程が進行し、「国民的文学」や「祖国史」といったナショナルな文化に焦点があてられるようになると、それにとともに、国内外の研究も単線的な文化論に追随する研究が少なくなかった。しかし、このようなアプローチでは、多言語・多文化が混在するこの地域の複雑な実相を理解することはできない。複眼的な視座を持つ新しいアプローチが必要とされていた。

(2) 2014年のウクライナの反政権デモに始まる「マイダン革命」をめぐるマスメディアの報道や論壇での議論では、日本のみならず欧米においても、ウクライナの文化と社会について平板な形でしか語られていなかった。ウクライナ問題は、国際政治・国際法・安全保障などの社会科学の専門研究なしに解決されないことは言うまでもないが、東スラヴ地域における文化的アイデンティティの複雑な構造を人文学の知によって解明し、その成果を広く一般に明らかにすることもまた極めて重要であると実感された。

(3) 本科研のメンバーは個別に、キエフ在住のロシア語作家アンドレイ・クルコフの研究や翻訳、ウクライナ出身のロシア語作家ミハイル・ブルガーコフの研究や翻訳、東スラヴ三国の言語・文化・民族をめぐる研究を行い、共同研究の下地ができていた。

(4) 本科研の主要メンバーが、平成 23～26年度科学研究費基盤研究(A)「ポスト・グローバル時代から見たソ連崩壊の文化史的意味に関する超域横断的研究」(課題番号 23242018) に分担研究者として参加していた。この研究では、ソ連時代末期の政治・社会・文化的総体がどのように質的な変化を遂げたかを分野ごとに明らかにするとともに、文化史的側面からソ連崩壊のプロセスを解明し、再評価する作業を行った。この成果を引き継ぐことが求められていた。

2. 研究の目的

(1) 本研究の大きな目的は、ロシア、ウクライナ、ベラルーシの「東スラヴ語文化圏」を対象として、その文化的アイデンティティの多層的な構造と形成過程を明らかにすることにある。主に文学・文化研究、歴史学、政治学の実分野の多角的・総合的アプローチによ

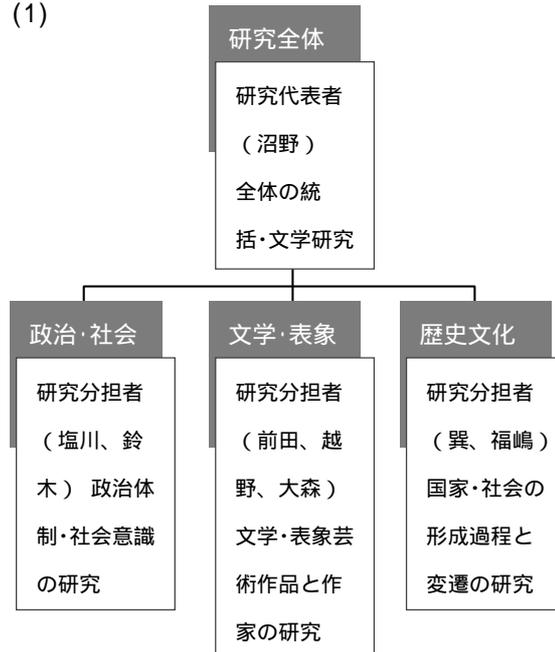
り、この地域の文化や民族意識の複雑な関係を解き明かし、それにより多言語・多文化空間を把握する手法を確立するとともに、この地域が直面する深刻な政治問題を理解する鍵を広く日本社会に提示する。

(2) 上記の目的を達成するためにより具体的な目標として次の3項目を設定した。第一に、文学・文化研究の実分野では、この地域で活動している現役作家・芸術家・研究者たちと連携して、当事者の視点からの文化認識を明らかにするとともに、彼らの作品を新たな視点で解釈する。第二に、歴史学の実分野では、ロシア帝国の拡張のみならず、ポーランド・リトアニア公国、ポーランド王国、モンゴル帝国、オスマン帝国などとの相互関係の中で、ロシア、ウクライナ、ベラルーシがどのように形成され、変化したか、文化と社会の複雑な様相を生みだした歴史的な過程を解明し、この地域の文化の構造を明らかにする。第三に、政治・社会の実分野では、この地域における言語、文化、芸術に関する政策とそれをめぐる政治過程を明らかにし、さらにはアイデンティティ、歴史認識に関する社会意識を調査し三国間で比較検討する。

(3) 三つの東スラヴ語のうち、ウクライナ語文化圏とベラルーシ語文化圏については日本でもまだあまり専門家がいらないという現状に鑑み、若手研究者を当該地域に派遣して言語と文化に精通させる。すなわち、ウクライナ文学・文化研究者、ベラルーシ文学・文化研究者を育成することを目的のひとつとする。

3. 研究の方法

(1)



本研究のグループを、上図のように三つのセクションに分けて構成した。すなわち、文

学・表象芸術作品や作家の研究をする「文学・表象セクション」、この地域の国家や社会の形成過程やその変遷を研究する「歴史文化セクション」、そしてこの地域の政治体制やと社会意識を研究する「政治・社会セクション」である。文学・文化研究をコアとしつつ、各セクションは個々の研究を自律的に深め、その成果をワークショップやシンポジウムに持ち寄って互いの知見を交換し合うことにより領域横断的な視座を得る。

(2) ロシア、ウクライナ、ベラルーシの研究者および作家、芸術家と連携してネットワークの構築を図る。具体的には、科研メンバーが積極的に国際学会に参加して自らの成果を発表するとともに、日本において本科研グループが主催するシンポジウムやセミナーに国内外の専門家や作家を招聘する。その際、念頭に置くのは、当該地域の関係者自身の越境性である。作家たちの地理的移動、民族的混雑、言語選択にフォーカスしながら対象地域の複雑さ・多様性を、単純化・図式化しすぎることなく把握する。

(3) 東京外国語大学が学術交流協定を結んでいるウクライナのリヴィウ大学に若手研究者を派遣して研究にあたらせ、緊密な連携をはかる。そうした研究者に、現地ではか得られないような情報や体験を通して深めた研究成果を、シンポジウムなどで報告して本研究に貢献してもらおう。

#### 4. 研究成果

(1) 初年度の平成 27 年度 (2015): 8 月に幕張で開催された国際中欧・東欧研究協議会 (ICCEES) 第 9 回世界大会に参加・貢献することを重要課題としたが、本科研メンバーは全員がこれに参加し、それぞれの分野で研究発表や討論を行い、内外の研究者と交流した。さらに本科研代表者の沼野恭子は、ICCEES の本部企画として国際シンポジウム「スラヴ文学は国境を越えて」を主催し、ウクライナ在住のロシア語作家アンドレイ・クルコフ、スイス在住のロシア語・ドイツ語作家ミハイル・シーシキン、オランダ在住のクロアチア語・英語作家ドゥブラフカ・ウグレシッチを招聘した。さらに、日本語・ドイツ語作家の多和田葉子が対論者として加わった。いずれも国際的に非常に高い評価を受けている作家たちであり、クロアチア (南スラヴ) を含むスラヴ語文化圏の存在感を強く内外に示すものになった。折しもマイダン革命を綴った『ウクライナ日記』が日本語に翻訳出版されたばかりのクルコフの来日は日本のマスメディアの注目を引いた。シンポジウムの報告集を刊行した。

代表者の沼野恭子と研究分担者の前田和泉がウクライナのリヴィウ大学とセルビアのベオグラード大学を訪問して講演し、研究ネットワークの構築に努めた。また、ロシア

文学、ウクライナ文学を研究している若手研究者を研究協力者としてリヴィウ大学に長期派遣した。

(2) 平成 28 年度 (2016): 本科研の最大の課題だったベラルーシの作家スヴェトラナ・アレクシエーヴィチの招聘を実現させることができた。彼女は、ソ連邦ウクライナに生まれ、ベラルーシ人の父とウクライナ人の母を持ち、主としてベラルーシに住み、ロシア語で執筆しているドキュメンタリー作家である。第二次世界大戦における女性従軍兵士や子供たちの体験とトラウマ、アフガン戦争に出兵した少年兵とその遺族たちの壮絶な経験、チェルノブイリ原発事故の被災者たちの苦しみなどソ連時代にはタブー視されてきた社会問題に鋭く切り込み、ソ連という国家とそこに生きた人々のメンタリティを証言に基づいて総括し五部作にまとめ (『セカンドハンドの時代』など) 2015 年度ノーベル文学賞を受賞した。作家自身の出自も、問題意識も、また彼女の手法が文学と歴史学の接点にあることも、本科研のテーマにぴったり合致している。代表者の沼野恭子は彼女のノーベル賞スピーチを日本語に訳出し、11 月に日本に招いて、東京外国語大学での名誉博士号授与、記念講演、学生との対話を企画・実施した。その模様は、新聞・雑誌など日本のマスメディアで大きく取り上げられ、本科研が目標のひとつにしてきた研究成果の社会への還元が果たされた。福島原発事故被災者へのメッセージや今回の記念講演を含む冊子を刊行した。

分担者の越野剛が日本ロシア文学会主催のシンポジウムでアレクシエーヴィチの作品について報告を行い、沼野恭子が「チェルノブイリの 30 年」というシンポジウムで彼女の作品を紹介するなど、来日を機にアレクシエーヴィチ研究を大きく前進させた。

アレクシエーヴィチの提起した問題意識を共有しつつ、代表者・分担者は個別に、リュドミラ・ペトルシェフスカヤ、マリナ・ツヴェターエワ、ミハイル・ブルガーコフの作品研究、ロシア革命 100 周年にあたっての歴史研究、ウクライナ問題の考察など、多彩な研究を展開した。アレクシエーヴィチという「核」に向かう求心的な研究と、そこから発展していく遠心的な研究がバランスよく織りなされたと言える。

(3) 最終年度の平成 29 年度 (2017): 本科研の締めくくりとして、11 月にシンポジウム「文化の汽水域～東スラヴ世界の文化的諸相をめぐる」を開催した。その 1 ヶ月前の 10 月に、東京外国語大学のグローバル・ジャパン・オフィスがウクライナのリヴィウ大学内に開設され、分担者の前田和泉と福島千穂が開所式に出席し、今後の学術交流・学生交流の発展の礎を作った。それを受けて、シンポジウム「文化の汽水域」にはリヴィウ大学

からオレスタ・ザブランナ教授を招聘。ロシア、ウクライナ、ベラルーシの言語、文学、歴史について研究成果報告と活発な議論が行われた。分担者の越野剛がアレクシエーヴィチの文学的手法について、塩川伸明が彼女のアイデンティティを絡めたベラルーシ論について報告したことは、アレクシエーヴィチ研究の深化を示していると言えよう。シンポジウムの成果を1冊の論集にまとめて刊行した。

同11月、代表者の沼野恭子はペテルブルグ国際文化フォーラムに招待され、日露の文学交流をテーマとするラウンドテーブルに参加し、ペテルブルグ大学でロシアにおけるジャポニスムについて講演を行った。以前から東京外国語大学はペテルブルグ大学と学術交流協定を結んで交流を進めてきたが、この訪問は研究ネットワークを広げるきっかけとなり、2018年2月にはペテルブルグ大学のリアラ・フロノープロ准教授を招聘してセミナーを開いた。

日本ではまだ専門家のあまりいないウクライナ文学の分野の研究者を育成するという目的で、リヴィウ大学に研究協力者の原真咲を長期派遣した。彼は現在、大学院博士後期課程に在籍し、ウクライナの歴史小説をテーマに博士論文を執筆中である。

(4) 3年間を振り返ると、地域横断的であるとともにジャンル横断的でもある共同研究活動を行うことができたことと総括できる。本科研のタイトルは「ロシア・ウクライナ・ベラルーシの文学と社会に関する跨橋的研究」だったが、まさに地域やジャンルを横断して多角的・複眼的なまなざしを得ることこそ「跨橋的研究」の名にふさわしい。それは、ロシア、ウクライナ、ベラルーシの複雑な関係性を解き明かすプロセスにおいてロシアを「異化」するものであるとともに、東スラヴ語文化圏の「異種混溶性」の実態をより深く理解するものでもある。

この異種混溶性の中にはもうひとつの重要な要素であるユダヤ性があり、当然のことながら、スラヴ文化圏の実相を研究する上でこの問題を看過するわけにはいかない。本科研の後継となる次期科研(B)「ロシア・ウクライナ・ベラルーシの交錯 東スラヴ文化圏の領域横断的研究」で、ユダヤという要素に着目しながら共同研究をさらに発展させていく方向性が定まった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計33件)

沼野恭子、「歌が私たちの呼吸する空気になった」一九六〇年代のソ連の弾き語り文化、総合文化研究、21巻、2018、30 - 45、査読無

塩川伸明、ロシア革命はどう記念されてきたか アニヴァーサリー・イヤーの歴史、ユーラシア研究、57巻、2018、21 - 26、査読無  
塩川伸明、歴史のなかのロシア革命とソ連国際問題、12巻、2017、1 - 4、査読無

鈴木義一、経済制裁下のロシア社会、ロシア・ユーラシアの経済と社会、1021巻、2017、12 - 25、査読無

鈴木義一、「計画化」という「実験」、現代思想、45 - 19巻、2017、202 - 212、査読無

越野剛、ベラルーシの中のポーランド バルシュチェフスキ・ミツキエヴィチ・ブルガーリン、フォーラム・ポーランド会議録、11巻、2017、20 - 25、査読無

福島千穂、「ルシ」再考、東京外国語大学論集、94巻、2017、189 - 207、査読無、DOI: info:doi/10.15026/89303

塩川伸明、一九一七年と一九九一年 ロシア革命 周年に寄せて、現代思想、10巻、2017、52 - 61、査読無

沼野恭子、チェルノブイリからフクシマへ アレクシエーヴィチの祈り、ユーラシア研究、55巻、2016、3 - 8

前田和泉、そして声は鳩となる～マリナ・ツヴェターエワのセクシュアリティをめぐって～、すばる、8号、2016、112-119

前田和泉、砂漠の奇跡 イーゴリ・サヴィツキ とウズベク・アヴァンギャルド、総合文化研究、19巻、2016、126 - 143、査読無

Масако Омори (大森雅子)、Советская сатирическая журналистика 1920 годов в романе М. А. Булгакова «Мастер и Маргарита» // Пятая международная научная конференция "Русская литература XX-XXI веков как единый процесс" М., 2016、239-241 査読無

鈴木義一、ウクライナ問題を多角的に考える、現代世界の諸相(東京外国語大学国際関係研究所) 4巻、2016、13 - 16、査読無

Go Koshino(越野剛)、Sharing Writers for a Small Nation: Belarusian-Jewish Russian Writer Grigory Reles, Slavic Eurasian Studies、30巻、2016、117 - 130、査読無

Numano Kёko (沼野恭子)、Парадокс японизма: Внедрение кимоно в русскую культуру начала 20-го века、文化の変容と新たなパースペクティブ(頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラムによるモスクワ研究集会論集) 2015、168 - 181、査読無

Numano Kyoko (沼野恭子)、On New Japanese Translations of Russian Literature、文化横断的行為としての翻訳(頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラムによるチューリヒ大学研究集会論集) 2015、33 - 42、査読無

Numano Kyoko (沼野恭子)、Nadezhda Lamanova: From Couturier to Mass Clothing Designer、Paesaggi corporei: percepire, scrivere, incarnare il mutamento (頭脳循

環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラムによるポーロニヤ大学研究集会論集)、2015、37 - 44、査読無

Yukiko Tatsumi (巽由樹子)、Russian Critics and Obshchestvennost', 1840-1890: The Case of Vladimir Stasov, Yasuhiro MATSUI (ed.), Obshchestvennost' and Civic Agency in Late Imperial and Soviet Russia: Interface between State and Society, London: Palgrave Macmillan, 2015、16 - 33、査読有

塩川伸明、現代におけるナショナリズムをめぐる状況 いくつかの「ねじれ」、状況、9巻、2015、65 - 78、査読無

[学会発表](計 32 件)

福嶋千穂、Consideration to the Influence of Religious Tolerance (Toleration) of 1905 on Former Uniates, International Symposium "Protecting the Empire: Imperial Government and Russian Nationalist Alliance in the Western Borderlands during the Late Imperial Period" (国際学会)、2018

越野剛、Image of Belarusian Village War in Ales Adamovich's Literary Works, Workshop "Heu auf dem Asphalt. Topoi Belarussischer Selbstverortungen" Potsdam University, Germany (招待講演、国際学会)、2018

巽由樹子、ロシア革命と文化史研究、早大ロシア研究所・東北大西洋史研究会シンポジウム「世界史の中のロシア革命」(招待講演) 2017

越野剛、Transgression of National and Religious Borders in Jan Barszczewski's 'Belarusian' Literary Works, Panel "Beyond Borders: National and Social Transgression in East European Literature," ASEES (Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies) convention (国際学会)、2017

越野剛、Memory of War in Belarus: Literary and Visual Texts, Panel "Intersection of Literary and Visual Texts in the Context of Russian and Soviet Culture," the 8th East-Asian conference on Slavic-Eurasian Studies, Chung-ang University, Korea (国際学会)、2017

越野剛、スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ作品の形式的側面について、シンポジウム「文化の汽水域～東スラヴ世界の文化的諸相をめぐって～」東京外国語大学(国際学会) 2017

塩川伸明、グリゴリー・ヨッフエのベラルーシ論とアレクシエーヴィチ、シンポジウム「文化の汽水域～東スラヴ世界の文化的諸相をめぐって～」東京外国語大学(国際学会) 2017

大森雅子、ミハイル・ブルガーコフの「ま

ち」作家の原点としてのキエフ、シンポジウム「文化の汽水域～東スラヴ世界の文化的諸相をめぐって～」東京外国語大学(国際学会) 2017

大森雅子、Советская сатирическая журналистика 1920-х годов в романе М. А. Булгакова «Мастер и Маргарита», Пятая международная научная конференция "Русская литература XX-XXI веков как единый процесс", Москву大学、2016

大森雅子、Пропаганда после-революционного периода в произведениях М.А. Булгакова, Журналистика в 2015 году: информационный потенциал общества и ремурсы медимсистемы, Москву大学、2016

越野剛、Как слышится голос советского человека: эстетическая поэтика в творчестве Светланы Алексиевич, 日本ロシア文学会全国大会、北海道大学、2016

福嶋千穂、17世紀ポーランド・リトアニアにおける殉教事件、東欧史研究会、東京外国語大学、2016

福嶋千穂、Unia kościelna w Rzeczypospolitej Obojga Narodów i jej ślady w dzisiejszej Polsce", Spotkania polonistyk trzech krajów - Chiny, Korea, Japonia: V Międzynarodowa Konferencja Akademicka 2016 Kanton, 広東外語外貿大学、2016

越野剛、A Subverting Perception of Tuteishiya (Local People) in Contemporary Belarusian Literature, Hokkaido University and Ghent University Joint Conference "Connecting Japan and Belgium" (国際学会)、ゲント大学、ベルギー、2016

沼野恭子、Крылья мениппеи в произведениях Людмилы Петрушевской, 国際中欧・東欧研究協議会 (ICCEES) 第9回幕張世界大会(国際学会) 神田外語大学、2015

巽由樹子、Non-Russian Publishers and Russian press in the Russian Empire, 国際中欧・東欧研究協議会 (ICCEES) 第9回幕張世界大会(国際学会) 神田外語大学、2015

越野剛、The Image of German Soldiers and of Belarusian Collaborators in Belarusian-Soviet War Films, 国際中欧・東欧研究協議会 (ICCEES) 第9回幕張世界大会(国際学会) 神田外語大学、2015

福嶋千穂、Rus' between Poland and Russia: Concerning problematics in the Terminology in Japan, Polish-Japanese Research Seminar "Europe seen from abroad"(国際学会)、International Cultural Center, Krakow, Poland, 2015

[図書](計 20 件)

沼野恭子、越野剛、大森雅子、原真咲、オレスタ・ザブランナ、塩川伸明、東京外国語大学、国際シンポジウム「文化の汽水域～東スラヴ世界の文化的諸相をめぐって～」報告

集、2018、88

塩川伸明、岩波書店、橋本伸也（編）紛争  
化させられる過去 アジアとヨーロッパに  
おける歴史の政治化、2018、336（執筆担当  
分は295 - 318）

塩川伸明、岩波書店、松戸清裕・浅岡善治・  
池田嘉郎・宇山智彦・中嶋毅・松井康浩（編）  
ロシア革命とソ連の世紀、第5巻（越境する  
革命と民族）、2017、336（執筆担当分は237  
- 262）

服部倫卓（編） 越野剛（編） 福島千穂ほ  
か執筆、明石書店、ペラルーシを知るための  
50章、2017、356

松戸清裕・浅岡善治、池田嘉郎、宇山智彦・  
中嶋毅・松井康浩・鈴木義一、岩波書店、ロ  
シア革命とソ連の世紀（1）世界戦争から革  
命へ、2017、324（執筆担当分は263 - 287）

塩川伸明・池田嘉郎編、東京大学出版会、  
東大塾 社会人のための現代ロシア講義、  
2016、300

越野剛、他 11名、京都大学学術出版会、  
歴史としてのレジリエンス：戦争・独立・災  
害、2016、（執筆分担は281 - 300）

福島千穂、群像社、プレスト教会合同、2015、  
129

巽由樹子、刀水書房、池田嘉郎・草野佳矢  
子（編）国制史は躍動する：ヨーロッパとア  
ジアの対話、2015、341（執筆担当分は188  
- 208）

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

沼野 恭子 (NUMANO, Kyoko)  
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・  
教授  
研究者番号：60536142

### (2) 研究分担者

前田 和泉 (MAEDA, Izumi)  
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・  
准教授  
研究者番号：70556216

鈴木 義一 (SUZUKI, Yoshikazu)  
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・  
教授  
研究者番号：40262125

巽 由樹子 (TATSUMI, Yukiko)  
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・  
講師  
研究者番号：90643255

福島 千穂 (FUKUSHIMA, Chiho)  
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・  
講師  
研究者番号：50735255

塩川 伸明 (SHIOKAWA, Nobuaki)

東京大学・法学（政治学）研究科（研究院）・  
名誉教授  
研究者番号：70126077

越野 剛 (KOSHINO, Go)  
北海道大学・スラブ・ユーラシアセンター・  
准教授  
研究者番号：90513242

大森 雅子 (OMORI, Masako)  
東京大学・大学院総合文化研究科・学術研究  
員  
研究者番号：90749152